

第5学年 のぞみタイム（総合的な学習の時間）学習指導案

は組 男子16名 女子17名 計33名
指 導 者 小 菌 博 臣

1 単 元 自分らしく生きる

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

これまでに子どもたちは、祖父母参観でのふれあい活動や第3学年の「ふぞくたんけんたい 山へ行く！」等の活動で高齢者とかかわる経験をしてきている。これらの経験を通して、『高齢者の方々と仲良くなりたい』『高齢者の方々のためにできることをしたい』という思いや願いをもつようになってきている。

そこで、本単元では、高齢者の方々との交流や高齢者疑似体験等を通して、高齢で不自由な面がありながらも、生きがいや楽しみを見付けて明るく前向きに生きることの素晴らしさに気付かせることをねらいとしている。また、高齢者と子どもが同じ社会の中で共に生きていくために、自分たちの生活や身の回りの社会環境について多面的に見つめ直し、自分にできることを自ら考え、判断し、進んで行おうとする資質や能力を培うこともねらっている。

このような学習で身に付けた見方・考え方は、誰に対しても思いやりの気持ちを持ち、助け合いながら、自分らしく生きていこうとする生き方や、今の自分自身を見つめ、自らの生活をよりよくしていこうとする生き方へと発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

高齢者は、知識や知恵、経験が豊富で、人生の大先輩である。また、交流相手の祖父母ボランティアの方々は、子どもたちの祖父母の中から、ボランティアとして協力してくださる方々である。そのため、健康で元気な高齢者が多く、子どもたちにとって身近な高齢者であり、親しみや尊敬の念を感じることができる高齢者である。このような高齢者への親しみや尊敬の念は、高齢者のためにできることを考えること、そして、自己の生き方を考えることへとつながっていく。

そこで、本単元の展開に当たっては、高齢者の方々とのつながりを深め、自らの学びを自覚的に捉えながら探究することができるようにするために、高齢者とのふれあい交流体験と、様々な体験活動の前後の話合い活動を重点化していきたい。

具体的にはまず、1回目の高齢者とのふれあい交流体験を設定する。事前の話合い活動では、単元名の「自分らしく生きる」ことについて互いの考えを出し合い、「『自分らしく生きる』とは、どういうことか」という課題意識と交流体験への目的意識をもたせるようにする。交流体験後の話合い活動では、「自分らしく生きる」ことについて追究するために必要な情報は何かを話し合う活動を設定し、学習の見通しをもたせる。次に、子どもが設定した課題について追究させる。その際、子どもが主体的に判断した内容及び方法で行わせるが、その中に、高齢者疑似体験を設定することで、多面的に高齢者の立場や生き方を追究できるようにする。そうして、高齢者への親しみや尊敬の念をもたせる。そして、高齢者の方々にお礼を伝える2回目の交流体験（おもてなし会）へと発展する。ここでは、それまでに学習した高齢者の立場や思い等を踏まえた計画を立てられるようにする。さらに、もっと多くの高齢者の方々のために、自分たちにできることはないか話し合い、高齢者と子どもが共に楽しく、自分らしく生き生きと生活できる町づくりを考え、提案する活動を設定する。その際、鹿児島市役所の町づくり担当の方を招聘し、子どもたちの提案に意見を述べてもらい、2回目の提案へと発展させる。最後には、市役所の町づくり担当の方から、2回目の変容やこれまでの取組等を価値付けてもらい、学習への満足感・成就感を感じさせるようにする。

これらの学習を通して、子どもたちは、自分でやりたいことを決めて、試行錯誤したり友達と協力したりしながら課題解決を繰り返し、自分の力で達成できた喜びを味わうことができる。そうして、身の回りの人・社会・自然と進んでかかわろうとする生き方へとつながっていくと考える。

(3) 子どもの実態（調査人数33人，質問紙法，調査結果は主なもののみ，数字は延べ人数）

表1 高齢者に対する見方・考え方

回答内容	人数
○身体や健康に関するもの ・手足（体）が不自由（9） ・杖をついている（6） ・体力がない（5） ・歩く速さが遅い（5） ・腰が曲がっている（5） ・しわが多い（5）	28
○内面的なもの ・知識や経験が豊富（4） ・優しい（2）	5

表2 高齢者との交流への意欲

回答内容	人数
○交流してみたい ・昔のことを聞きたいから（10） ・いろいろな遊びを教えてもらいたい（6） ・様々な人たちと触れ合ってみたい（4）	26
○交流したくない ・話が合わなそう（4） ・話が長い（2） ・世話が大変（2） ・気を遣う（2）	10

表3 高齢者福祉への参加意識

回答内容	人数
○直接的な働きかけ ・重い物等を運んであげる（13） ・席をゆずる（10） ・会話する（8）	32
○間接的な働きかけ ・バリアフリー化（4） ・募金（2）	7

表4 高齢者について追究する方法

回答内容	人数
○インタビュー ・高齢者（20） ・詳しい人（7） ・親（5）	31
○その他 ・アンケート（6） ・観察（4） ・インター ネット（3） ・図書（2） ・施設見学（1）	10

本学級の子どもたちは、表1に見られるように、そのほとんどが、高齢者に対して、身体的または健康的な不自由さがあるというイメージをもっており、高齢者のもつ知識や経験、優しさといった内面的な良さについて挙げる子どもは少数であった。また、表2から、約3割の子どもたちが、高齢者との交流に対して意欲的ではない。これは、これまでの経験の中で、高齢者に対して気を遣わなくてはならないと過度に感じすぎてしまい、交流することへの煩わしさを感じているためと思われる。さらに、高齢者福祉への参加意識は、荷物を運ぶ、席をゆずるなどといった直接的な働きかけを挙げる子どもが多い。高齢者のためにできることについて、もっと多面的に捉えさせていく必要がある。なお、表4から、追究の仕方としては、インタビューを挙げる子どもが多い。

このような実態を基に、**高齢者とのふれあい交流体験の実施に当たっては、高齢者のもつ知識や経験、優しさなどの内面的な良さに触れたり、気軽に語ったりできるようにしたい。**また、高齢者福祉への参画意識を広く捉えることができるようにするために、高齢者福祉の仕事に携わる人や福祉の視点から町づくりを行っている人などの話を聞いたりする活動を取り入れ、多面的に高齢者の生き方を捉えることができるようにしたい。

(4) 指導上の留意点

ア 「発見」の段階では、高齢者の方々の知識や経験、優しさなどを体感できるようにするために、ふれあい交流体験を設定する。その際、**高齢者の方々から、将棋や料理などを教えてもらう「ふれあいタイム」と、茶菓子を食べながら思い思いに会話を楽しむ「語らいタイム」を設定する。**その後の話し合い活動では、課題解決につながるのか、高齢者への配慮がなされているかといった視点から、自らの考えを問い直すことができるようにする。

イ 「検証」の段階では、高齢者の方々について理解を深めるために、自ら設定した課題の解決に向けて、高齢者に対してのインタビューやアンケートを行う活動や、高齢者疑似体験を設定する。また、高齢者に対する見方や考え方を広げるために、社会福祉協議会の方の話を聞く機会を設定する。

ウ 「創造」の段階では、再度、高齢者との交流を設定する。ここでは、学校行事である祖父母参観を活用し、自分の祖父母を対象とした「おもてなし会」を開く。その際、家庭科で学習した裁縫や調理を生かすことで、自らの学びや成長を祖父母に伝えられたという満足感をもたせる。活動後は、もっと多くの高齢者のために何ができるか問いかけ、「参加」の活動へとつなげる。

エ 「参加」の段階では、市長寿支援課の方に、子どもと高齢者が仲良く過ごすことができる町づくりの必要性を語ってもらい、高齢者福祉の考えを生かした町づくりへの意識を高める。その後、町づくりを提案する活動へと発展させたい。

3 目 標

- (1) 高齢者とのふれあい体験や高齢者疑似体験、社会福祉協議会の方へのインタビュー等を通して、高齢者福祉に対して興味・関心を持ち、追究したい課題を決めることができる。

- (2) 課題に対する解決策の見通しをもち、順序を考えて計画を立て、多様な方法で調べることができる。
- (3) 友達との情報交換や話し合いの中で、目的意識をもって友達の考えを聞き、多面的な観点から高齢者福祉を捉え、理由や根拠を明確にして考えることができる。
- (4) 追究した事柄や自分の考えを、相手に分かりやすく表現するために、資料を選択したり加工したりして、説得力をもたせて伝えることができる。
- (5) 追究してきた高齢者福祉や自分の追究方法を振り返り、広がった見方や考え方をこれからの自分の生き方に活かして実践することができる。

4 指導計画 (全50時間)

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">発見</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">検証</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">創造</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">参加</div> </div>	1 学校の警備員さんの話を基に、「自分らしく生きる」ことについて考えを話し合う。 ・「自分らしく生きる」ってどうすること？ ・警備員さんは、自分らしく生きているような気がするよね。 ・色々な人の「生き方」を探っていこう。	1	○ 単元を貫く問いとして、「自分らしく生きるとは？」という問いを設定する。 ○ お世話になっている高齢者の中から、本校の警備員さんを取り上げ、その方の生き方を基にして、「自分らしく生きる」ことについて考えを出し合う。
	2 高齢者の方々とふれあい体験の計画を立て、準備をする。	2	○ 高齢者の方々の知恵や経験、優しさなどを体感するために、高齢者とのふれあい交流体験を設定する。
	3 高齢者の方々とふれあい体験をする。	2	○ ふれあい交流体験を基に、その後の学習への見通しをもつための言語活動を設定する。その際、課題解決につながるのか、高齢者の立場からも考えられたものかといった視点から、問い直すことができるようにする。
	4 ふれあい体験を振り返り、今後、調べたいことをつかむ。 ・僕は、お年寄りの夢を調べてみたい。 ・私は、お年寄りの座右の銘について調べてみようかな？	1 本時	○ 自分で設定した課題の解決方法を自ら考え、追究することができるようにする。その際、アンケートやインタビューに関しては、祖父母ボランティアや自分の祖父母に依頼させる。
	5 高齢者の生き方について追究する。 夢 子どもへのメッセージ 座右の銘 等 追究の方法：インタビュー・アンケート 等 ・お年寄りの皆さんも、夢をもって、生き生きと楽しく生活しているんだね。 ・みんなのために…という思いが強いな。 ・年を重ねても、挑戦するってすごい。	10	○ 高齢者について、多面的に追究することができるように、社会福祉協議会の方をアドバイザーとして招聘し、高齢者疑似体験をさせてもらったり、高齢者福祉に関する話を聞いたりする活動を設定する。
	6 高齢者疑似体験をする。	2	○ それまでの高齢者とのかかわりや高齢者疑似体験等の経験から生まれた高齢者の方々への尊敬の念や感謝の気持ちを基に、高齢者の方々をもてなし会(おもてなし会)を開く活動を設定する。
	7 社会福祉協議会の方の話を聞く。 ・お年寄りの方って、こんなに大変なんだ。 ・それなのに、自分たちのためにいろいろしてくれたんだね。ありがたいな。	2	○ おもてなし会では、家庭科で学習した裁縫やお茶の入れ方などを生かしたり、国語で学習したプレゼンテーションの仕方等を生かしたりして、学びの発表の場として位置付けるようにする。
	8 おもてなし会の計画を立て、準備をする。	5	○ さらに多くの高齢者のために自分たちでできることを考えることができるようにするために、市長寿支援課の方を招聘し、鹿児島市が抱える高齢者福祉の問題や子どもたちに求めることを語ってもらう。
	9 おもてなし会を開く。	1	○ 市長寿支援課の方の話を基に、これまで学習した高齢者の方々の思いをさらに社会へと広げるために、子どもと高齢者が仲良く過ごせる町づくりについて考え、提案する活動を設定する。その際、提案は、練り直しを経て、2回行うようにする。
	10 おもてなし会を振り返る。 ・もっと広く、多くのお年寄りのためにできることには、どんなことがあるだろう？	1	○ 活動への満足感、成就感を持たせるために、市長寿支援課の方に提案を聞いていただき、価値付けてもらうようにする。
	11 市長寿支援課の方の話を聞く。 ・僕たちも、お年寄りと子どもたちが仲良く過ごせる町づくりをやりたい！	2	
	12 子どもと高齢者が仲良く過ごせる町づくりを考える。	10	
	13 考えた町づくり構想を提案する。	2	
	14 町づくり構想を考え直す。	6	
	15 再度、提案する。	2	
	16 これまでの活動を振り返り、「自分らしく生きる」ことについて、経験を基に話し合う。 ・好きなことを楽しんだり、みんなのために働いたりすることが「自分らしく生きる」ことかな？また、これを問い続けることが大事だね。	1	

5 本 時 (6 / 50)

(1) 目 標

「自分らしく生きる」を追究するために、お年寄りの何について調べるのか話し合うことを通して、学習経験を基に調べたい内容を広げながら考えたり、根拠を明確にして絞ったりしながら、自ら判断し、今後の追究について見通しをもつことができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、課題の明確化を目的にした学び合いが重要であると考えている。そこで、今後の学習に明確な意図をもち、自覚的に学ぶことができるようにするために、自らの考えが、課題解決につながるのか、高齢者への配慮があるか問い直す活動を設定する。その際、その考えと「自分らしく生きる」ことのつながりを問いかけたり、GTに、インタビューされる方の思いを問いかけたりする。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
発 見	1 高齢者とのふれあい交流体験を振り返り、本時の学習について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> お年寄りの方々は、みんな元気で、自分らしく生きている感じがしたな。 お年寄りの方々の何について調べれば、「自分らしく生きる」ヒントがつかめるんだ？ 	10	○ 高齢者の立場も考えながら今後の活動を見いだすことができるようにするために、前回のふれあい交流体験でボランティアとして参加して下さった高齢者の方をGTとして招聘する。 ○ 問題の集点化を図るために、高齢者との交流を経て、「自分らしく生きるとは？」の自分の答えがどのように変容したのか問う。
	「自分らしく生きる」ことを探るために、お年寄りの何を調べればよいだろうか。		
検 証	2 自分の考えを広げる。 <ul style="list-style-type: none"> 趣味 ・ 休日の過ごし方 ・ 職業 生い立ち ・ 将来の夢 ・ 座右の銘 子どもたちへのメッセージ 等 	5	○ 拡散的に思考し、多くの考えを引き出すことができるようにするために、個々の考えを見取り、全体へ広げる。その際、考えを付箋に書いておくことで、その後の整理・分析ができるようにする。
	3 互いに自分の考えを交流し合い、調べられそうなものを3～4個に絞る。 「自分らしく生きる」とのつながりから <ul style="list-style-type: none"> 「自分らしさ」を感じるもの その人の「生き方」が込められているもの 		
	GT (高齢者の方) の考えから <ul style="list-style-type: none"> 「職業」は、人によって質問されて答えにくい人もあるかもなあ。 		
創 造	精選された考え 「将来の夢」「生い立ち」「座右の銘」「子どもたちへのメッセージ」等	2	○ 出された考えが、高齢者の生き方を追究することか問い直すことができるようにするために、「〇〇について調べたら、何が分かるかな？」と問いかける。 ○ 高齢者の方の立場から問い直すことができるようにするために、GTの思いを引き出す。その際「質問されて答えにくい質問はありますか？」と問いかける。
	4 お年寄りの何について調べていくか、個人で決める。 <ul style="list-style-type: none"> 僕は、お年寄りの「座右の銘」について調べて、「自分らしく生きる」について考えていこう。 		
参 加	5 調べる方法を自分で考え、ワークシートにまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> お年寄りの方にインタビューしたり、アンケートしたりして調べよう。 	5	○ 目的から物事を見直すことや相手の立場から見直すことの大切さを自覚的に捉えることができるように、この2つの考え方を板書する。 ○ さらに具体的な見通しをもつことができるようにするために、調べる方法を考え、ワークシートに書く活動を設定する。その際、目的と手段が視覚的に捉えられるようなシートを用いる。
	6 本時の活動を振り返り、学んだことや次時に取り組みたいこと等を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 計画を立てるときには、「本当に目的が達成できるか」「相手の立場から考えるとどうか」という視点で考えることが大切だな。 次は、調べる方法をもっと考えたいな。 		